

# 經濟論叢

第七十一卷 第四號

---

山村の經濟構造と財政 …………… 島 恭 彦 (1)

資金面から見た日本鐵鋼業の再編成過程  
…………… 渡 邊 敬 司 (18)

我國中央銀行政策史の-齣 …………… 小 野 一 一 郎 (48)

---

[昭和二十八年四月]

京都大學經濟學會

## 記事

### 經濟學會

○昭和二十七年十二月例会 十二月十六日(火) 午後一時より法經會議室において開催され次の報告があつた。

一、企業所得の理論

—所得・減税・資本蓄積—

岡部 利良氏

一、日本社會政策史の分析視角

—渡邊助教の方法論に對して—

向井 喜典氏

○昭和二十八年一月例会 一月二十二日(木) 午後一時より樂友會館において開催され次の報告があつた。

一、海外旅行報告

豊崎 稔氏

一、我國鐵鋼業と貿易

—その過去と現在—

小野 一一郎氏

○昨秋開催された本學經濟學會大會研究報告會における研究報告の要旨を次に掲載する。

### 資本論における統計利用の問題

上杉正一郎

(一) マルクスが資本論において利用した統計は、主としてイギリスの統計(たとえばイングランドおよびウェールズの國勢調査、一八六一年)であるが、なおアメリカの統計やロシアの統計(ことに地代論の研究にかんして)にも深い注意を拂つた。ビーズレイの指摘しているように、ヨーロッパ諸國の統計に通じているという点で、マルクスと肩をならべる者は一人もなかつた。

(二) マルクスは統計を批判的に利用した。その場合、單にこれこれの統計が正確でないというふうに批判したのではなく、それらの統計の歪曲がブルジョア階級の利益と結びついて行われることを明らかにした(たとえば死因統計、児童労働統計、所得統計、被救恤窮民統計、炭坑災害統計などについて)。

(三) 資本論の中の數字には、「統計數字」と「假定された數字」の二種がある。兩者を混同することは許されない。假定された數字は理論を抽象的に展開する場合、叙述をはつきりさせるために使われている(たとえば第二卷第二〇章單純再生産、第三卷第三章利潤率の剰余價值率に對する關係の箇所)。しかし、假定された數字が歴史的な現實と全く無關係であつてもいいというのではなく、マルクスは、しばしばその假定の現實性を検討している。この点については、第三卷および剰余價值學說史第二卷において、絶對地代を論じている箇所が重要な示唆

をあたえる。(この報告は、民科・全日本學生社研連合演講座、資本論の解明、第四分冊所収の私の論文「資本論と統計」をもととしておこなわれたものである)。

フランス百科全書派の經濟思想

河野健二

一七五一年に第一巻が出たフランス百科全書は、一七七二年までかかつて全三五巻が出版され、フランス革命前夜における科學・技術の集大成をなしたものであるが、この劃期的な大事業の最大の功勞者はデイドロであつた。デイドロは、ヴォルテール、ダランベール、ケネーなど社會科學・自然科學を問はず、科學者・思想家の廣汎な共同戦線をつくり上げ、專制主義とキリスト教に抗して、民主主義と理性を擁護した。

デイドロの思想的立場は、政治的には制限君主政を主張し、經濟的には私有財産の確立とその自由を擁護している。かれはその点でルソーおよびケネーのいづれからも區別され、兩者の中間的に立つている。しかも、かれが進歩的たり得たのは、かれが産業および産業技術(生産力)の發展を促進する立場にいたからである。かれの立論は、こうして自由主義的貴族・産業ブルジョワージ・中小市民の要求に應じたものであつた。

百科全書は、全体としてのフランス近代化の方向に沿いつつ

それを促進し、浸透せしめるものであつた。しかし、それはブルジョワ的改良主義の範圍にとどまるもので、フランス革命を自力で打ち出していく「下から」の運動を呼びかけたものとする事はできないのである。

ドイツ初期社會主義

内田一男

ドイツ初期社會主義の代表的なものは、ワイトリングと眞正社會主義(その代表者はモーゼス・ヘラス)である。

兩者については、マルクスの「共產黨宣言」における政治的評價がある。私の課題は、かゝる政治的結論への過程を内面的に追求することにある。

一、これが特殊ドイツ的刻印を帯びる所以は、英・佛と異り、この時期においてドイツがブルジョア革命を経ていない。という社會的基礎にある。その理由は、西欧のいわゆる空想的社會主義においては、考察の對象が、近代市民社會の最も代表的な問題領域であるところの經濟部面に——決して充分でないにせよ——及んで來ているのに對し、ドイツのそれは著しく宗教的なまでに空想的(ワイトリング)であるか、又は哲學的(眞正社會主義)であり、經驗的なものに向けられていないからである。

二、ドイツ初期社會主義の兩者夫々の性格は、思想の近代性

という面から見れば、ワイトリングのそれは、歴史意識においてフランス空想社會主義社に及ばず、トーマス・モアのような絶對主義期の思想家としての面が強い。これに比して、眞正社會主義は、絶對主義の精神的支柱たる宗教を破壊するという左翼ヘーゲリアンの問題視点から出發している限り、むしろ一見近代啓蒙思想家に連なる一面をもつ。ところが反面、前者における社會主義は、最初からその核心が「實踐」にある限り、マルクスも高く評價したような革命性があるのであるが、後者はこれをもつておらず、「社會的文學運動」に惰してしまい、マルクスから、反動的社會主義の刻印を受けとらねばならなくなる。即ち、思想の近代性と實踐性において、両者は逆の關係を示す。(但しこの關係は外見上のもので、眞性社會主義者は、

ヘーゲルが兎も角も把え得た「近代的な勞働」の概念を全く忘却し、「眞なる人間の意志の法則」を持ち出した時、思想の近代性をも捨て去つた、と見ることが出来る。)これは兩者の社會主義思想の系譜の相異——前者は西欧の初期共產主義から、後者は市民的社會主義から——によるものであり、従つて兩者の階級的基盤の相異——プロレタリアのそれと小市民のそれ——にあるものと思われる。

銀行資本と流動性

中 谷 實

本論題についての詳細は「經濟論叢」第七十卷第六號(昭二七・一二・)に收録されている。

### 本 號 執 筆 者 紹 介

杉 原 四 郎

關西大學教授

今 川 正

香川大學助手

中 西 健 一

京都大學 特別研習生  
大學院